

# 令和4年度 出雲サンサン保育園 事業計画

## 1. 保育理念

一人ひとりの子どもの育ちを大切に、地域の中にとけ込んだ温かい保育園を目指します

◎木の温もりのある開放的園舎、地域の方からの温かい眼差しに包まれた保育園

保育方針

「よく寝、よく食べ、よく遊ぶ」生きる力の基礎を育成します

保育目標

- ① 健康な身体と心を持ち、意欲をもって活動できる子
- ② 助け合う仲間関係が持てる子
- ③ 豊かな感性を持ち、自分の思いが表現できる子

## 2. 保育事業

(1) 子ども一人ひとりを尊重した保育に取り組みます

- ・主体的な遊びの中から楽しさに気づくことができ、自然に楽しめる保育展開が出来るよう環境構成等考え工夫します。
- ・子どもの発達過程や状況を把握し、小学校入学以降を見据えた乳幼児期の発達の連続性に着目した保育を大切にします。

(2)安全で信頼のおける保育に取り組みます

- ・新型コロナウイルスの感染状況を判断し、迅速な対応に努めます。
- ・感染症対策や食物アレルギー対策、また園舎内外に於ける事故防止と未然回避対策に向けてマニュアルを基に適切な対応を図ります。
- ・自己評価や保護者、地域、第三者委員の意見等を真摯に受け止め、保育園としての課題と改善点を明確に伝え、共に育む保育園として相互の意識を高めます。
- ・個人に関する情報については、ネット上での漏洩など危機管理を伝え、保護者と共に慎重に取り扱います。

(3)地域と共に子どもの育ちを支援します

- ・地域の方々との関わりを通して、保育所機能を生かした子育て支援を実践します。
- ・保護者や地域の子育て家庭に情報を発信し、子育て力向上の充実を図ります。
- ・神西小学校校区で保幼小の連携を深めます。

(4)保護者と共に子どもの育ちを支え共に歩みます

- ・保護者の心に寄り添い、子どもと保護者の安定した関係形成に努めます。
- ・保護者の養育力向上に努め、必要に応じて、行政並びに専門機関と連携を密にして対応します。

(5)職員の資質の向上に努め人間力を高めます

- ・園内研修の充実を図り、職員間の連携情報共有により、一人ひとりが自信をもって保育が出来る環境を作ります。
- ・日々の保育を振り返り、様々な学びで知り得た新たな保育に関する内容を様々な会議で意見交換し協働性を高めます。
- ・保育システムを活用し、業務の効率化を図ります。

### 3. 特別保育事業

(1) 一時預かり事業

- ・家庭内の子育ての孤立化解消等の支援と、保護者の都合により子育てが困難な場合に一時的に保育支援します。

(2) 延長保育促進事業

- ・仕事等により、保育時間内に迎えに来られない場合に必要に応じて保育支援します。

### 4. 保健

(1) 健康管理に努めます

- ・保護者との情報交換を密にし、毎朝の視診を丁寧に行うとともに、健康状態及び発育・発達状態を把握し、保育に生かします。

(2) 体調不良時、緊急時には適切な対応を行います

- ・体調不良や事故が発生した場合、看護師との連携、指示のもと速やかに対応します。

(3) 感染症の予防と対策に努めます

- ・感染症情報システムの活用により、地域の感染状況を把握し情報を的確に伝え、予防に努めます。発生した場合はマニュアルに基づき対応します。

(4) 健康増進に努めます

- ・保健計画に基づき、健康の保持及び増進に努め、健康状態や疾病等の把握に努めます。
- ・園医により定期的に健康診断を行います。

(園児) 健康診断(2回) 耳鼻科検診(1回) 歯科検診(2回)

(職員) 健康診断

- ・定期検査、安全衛生に努めます。

(園児) 身体測定(毎月) 検温(午前・午後 一日 2 回)

突然死症候群予防(乳児のみ睡眠時 15 分おきチェック)

(職員) 検便(O-157 検査含む) 検温(午前・午後 一日 2 回)

(0 歳児担任・給食担当・保健担当/毎月 その他職員 1/3 ヶ月)

## 5. 食育

### (1) 食べる意欲を引き出します

- ・楽しく心地よい食体験を積み、「食べたい」気持ちを大切にします。
- ・大皿から取り分ける給食により、自分の食べられる量を調整したり、仲間を思いやる心を大切にします。(感染症流行時は中止し対応します)
- ・料理の匂いや作っている音、姿を見て、空腹を感じ、食事が楽しみに待てるようにします。
- ・食器は温もりの伝わる陶器、口当たりのやさしい竹箸、竹のスプーン(0 歳児)を使って食べることを大切にします。
- ・健康な身体作りに必要な食品の種類や働きを知り、食べる意欲につながる食育学習の時間を大切にします。

### (2) 五感を使った食体験を通して学びます

- ・菜園活動や調理体験等により、食べ物を大切にする気持ちや感謝の心を育てます。
- ・給食には出来るだけ地元の食材を使い、感謝の気持ち、ふるさとを想う気持ちを育てます。
- ・昔ながらの食文化に触れることのできる食事を大切にし、四季の移り変わりを感じられるようにします。
- ・箸や茶碗の持ち方、姿勢など年齢にあったマナーを身につけます。
- ・食事の準備、後片付けなども食事の一貫として大切にします。

### (3) 味覚を大切にします

- ・化学調味料や加工食品を控え、旬の食材をふんだんに使い、自然の旨みや風味を感じることで食事を大切にします。
- ・おやつは 4 回目の食事としてとらえ、添加物のない手作りのものを提供します。

### (4) 個々への対応を図ります

- ・離乳食は月齢にとらわれず、発達や機能に合わせ、家庭と連携をとりながらすすめま

す。

- ・出雲圏域保育所における食物アレルギー対応の手引きを基に、食物アレルギー児への対応は医師の指示により、食材・調理方法等に配慮し、家庭と連携をとりながら慎重に進めます。

#### (5) 衛生面への配慮に努めます

- ・新型コロナウイルスの感染対策として、会食の密を避け、適正な距離の保持に努めます。
- ・食前食後の手洗いやテーブルの消毒などにより、衛生面に配慮します。

## 6. 保育環境

(1) 子どもが安心して生活し、伸び伸びと遊べる環境に努め、必要な改修・修繕は速やかに行います。

- ・新型コロナウイルス感染対策として、園内消毒・換気に努めます。
- ・安全点検、維持管理と美化に努め、必要な修繕は速やかに行います。
- ・毎朝、大気汚染の状況確認を行い適切な対応に努めます。
- ・省エネとコスト意識を持ち、設備や備品等を適切に取り扱います。

(2) おもてなしの心を大切にします

- ・笑顔と挨拶を忘れず、明るい雰囲気づくりに努めます。

## 7. 防災・防犯

(1) 毎月の避難訓練は関係機関との連携のもと実践力を高めます。

(2) 連絡メールシステムを活用し、緊急時の連絡を検証しながら確実に行ないます。

(3) 「地震防災管理計画」「事業継続計画」を基に、各自がとるべき行動を再確認します。

(4) 防災・防犯に関する研修や訓練、設備活用等の対策により安全の確保に努めます。

(5) 様々な災害を想定した訓練を実施し、防災防犯に対する意識を高めます。

# 出雲サンサン保育園 事業報告

## 1 主要事項

日々感染症の発症状況を把握し、安全確保と保護者への周知徹底を図り発症者確認時は迅速に対処出来た。また、全国的に不適切な保育問題から園児の安全確保のため安全計画作成が義務付けられ、保育全般の振り返りが出来、今後の課題が明確になった。

園児受け入れは、年度後半に育休取得後の0歳児を在園児兄弟で受け入れ、新年度への運営に繋げた。同時期に職員の産休が重なり、最低基準上での問題に直面したが全職種で体制を整え保育の質を維持することが出来た。

コロナ禍により外部研修が激減したが、島根大学の原教授を講師に招き養育を主に園内研修の充実を図り、保育園と小学校への架け橋を主とした教育的視点の保育は教育センターより講師を招き保育の質を高めた。ビデオ収録を視聴することで全職員が公開保育に参加し、園児一人ひとりに寄り添った保育の重要性を再認識した。またWeb開催のキャリアアップ研修による資格取得で研修参加による保育に支障がないように職員間の連携を強化して実施出来た。今年度、神西地区の人権同和教育研究発表において、地域の方々のご支援により四季折々の体験活動で育む心と身体についての取り組みをパネル展示として参加した。また第64回全国私立保育研究大会で同様に「人々と親しみ、支え合って育む心と身体」について5領域「人間関係」の提案発表を行なうことにより、開園当初から保育活動を振り返り、今後の課題を見出すことが出来た。

コロナ禍での予防対策、マスク着用について子どもの負担等、園医と相談し行政関係部署との連携により的確な状況判断で対処し休園措置を講じることなく通常保育に努めた。感染症発症時のマニュアル周知対応が保護者への信頼関係を更に深めたことが保護者対応状況から感じ取ることが出来た。3歳児以上クラスではマスク着脱が自立し、戸外や運動時は外して身体の負担がなく過ごせた。保育環境においても、給食後の消毒も適切に行ない感染予防対策に万全を期した。

保護者の入室制限も必要時には健康チェックを行ない、保護者参加の場を設け、園内の様子を伝えながら人数規制や園庭で環境を考慮して保育行事を実施した。園児の様子を保護者に伝わるよう最善の策を講じ、保護者と共に一人ひとりの成長を感じる事が出来た。また出雲市保育園保護者連合会会長園の事務局として事業運営に携わり、Gメールで保護者連合会独自のアドレス取得や主として陳情関係での連携構築など事務局運営がスムーズに行なえるようシステムを作成し次園に引き継いだ。

## 2 評価・反省

### 1 保育事業

- ・島根大学大学院教授 原広治先生、島根県幼児教育センター指導員 川上洋子氏2名を招き、職員研修を行った。自らの保育や他クラスの保育を振り返り、子どもの自主性や主体性を育てる保育について考え、保育の質を高めていくことが出来た。

- ・感染症対策を講じながらロールマットでのマッサージを再開し、個々の体の柔軟性や肌の状態などを毎朝確認することができた。
- ・異年齢クラスでのリズム運動や遊びの中で、年長児に憧れを抱いたり、年下の友だちをリードし思いやる中で、協調性や社会性を育むことが出来た。
- ・保護者からの意見について真摯に受け止め、職員間で協議し、早急に改善するなど迅速に対応し、信頼のおける保育園づくりに努めた。
- ・新型コロナウイルス感染症対策が続く中、神西ふれ合い子育てサロンへの出向きや保育園の開放は難しかった。“サンサンへ行こう”“子育て相談の日”の作成、配布を継続して行い、子育て家庭に役立ててもらえるよう努めた。
- ・米作りや餅つき、とんどさんを行い、地域の方やボランティアの方との交流を継続して取り組むことが出来た。
- ・未満児会、以上児会を毎月行い、職員一人ひとりがより良い保育のために意見を出し合い、活発な意見交換ができるようになってきた。

## 2 特別保育事業

### (1) 一時預かり事業

- ・一時預かり事業では、利用者のニーズに出来るだけ応えられるよう、同年齢のクラスの状況、職員体制等確認しながら受け入れを行った。年間を通しての長期利用は、在園児と同様の保育で対応した。

### (2) 延長保育促進事業

- ・保護者との連携もでき、事前に利用希望を把握しながら受け入れが出来た。
- ・コロナウイルス感染症予防の対策をとりながら、保護者も子どもたちも安心して過ごすことが出来るよう努めた。

## 3 保健

- ・基本的な感染対策を続け、園児、職員の健康管理に努めた。
- ・けんこうだよりで、子どもたちの健康状態や健康管理の情報を発信し、感染症対策や健康管理に関して、保護者と保育園とが連携して取り組むことが出来た。
- ・散歩時に蜂等の毒虫に対応できるよう、ポイズンリムーバーを備え、使用についての研修を行った。救急用品の点検や補充をし、保健的に必要な物は全クラスで共通化を図った。
- ・感染症の対応や処理手順について、マニュアルを確認しながら、対処できるようスキルアップを図った。

## 4 食育

- ・菜園活動・収穫体験・調理活動を通して、食材に興味を持ち、食物への感謝の心を育むことがで

きた。

- ・栄養に関する食育で3色食品群の話をし、親子で考える年長児の誕生日献立や子どもたちが考えるクリスマスメニューで、旬の食材や栄養にも興味を持つようになった。
- ・給食委託業者と献立や食材の確認を行い、安心・安全な給食の提供に努めた。
- ・和食中心の中にも子どもが給食やおやつの時間が楽しみになるメニューを考え、取り入れることができた。

## 5 保育環境

- ・子どもが安心・安全に過ごせるよう、月1回の安全点検を継続して実施した。破損箇所があった場合には、営繕担当と連携し迅速に対応することができた。
- ・大気汚染状況を毎日、朝と午後に確認し、園外で安全に活動することができた。

## 6 防災

- ・毎月避難訓練を行い、園児・職員共にスムーズに避難できるようになる。
- ・怪我人が出た場合、地震で倒壊して誰かが取り残された場合等、様々な場面を想定した訓練も必要だと感じた。
- ・水害を想定した訓練では誘導ロープをつたってサンホームへ避難した。建物から建物に避難する際に時間がかかった為ロープの結び方について全員で確認する必要がある。低月齢の練習は日頃から誘導ロープに触れる機会をつくる等の課題が残った。
- ・不審者対応訓練は、今年度は園児も参加する訓練を計画した。不審者役を設け、園児と職員も落ち着いて迅速に避難することができ、再度不審者に対する防御の仕方、避難経路を全員で確認することが出来た。